

最上地区の県立高校再編整備計画＜第2次計画（骨子案）＞に係る地域説明会記録要旨
【新庄市会場】

- 1 日時 令和2年9月2日（水）19：00～20：30
- 2 場所 新庄市民文化会館
- 3 出席者 地域の方々93名
県教委 片桐教育次長、生島高校改革推進室長、外 事務局職員5名
- 4 内容 室長から説明後、質疑応答
- 5 質疑応答概要

（質問・意見）

- 新庄北高校の夜間定時制では働きながら学ぶ生徒が少なくなっているのはわかるが、全国的にも夜間中学が新設されており、昼間定時制とあわせて、県内に先駆けて夜間中学を開設してはどうか。

（県教委）

- まず、夜間中学と夜間定時制は全く違うものだということを御理解いただきたい。夜間定時制については、従来の勤労青少年のための学校という色合いが薄れ、全日制課程からの転・入学者や不登校経験のある生徒など、多様な入学動機や学習歴を持つ生徒が増加しており、学び直しの学校という役割が拡大している。しかし、夜間の時間帯であるため、通学に公共交通機関を利用しにくく、通学可能エリアが限定されることや、日中の企業見学やインターンシップなどの教育活動に取り組みにくいなど、デメリットがある。一方、昼間定時制については、生徒の生活リズムが安定し、夜間の通学の負担を軽減できることや、校外での体験的な活動を取り入れるなど教育の幅を広げることが期待できるなど、メリットがある。

なお、酒田西高校定時制は、平成30年度に昼間に移行したが、県高教研保健養護部会研究協議会において、通学面では保護者の送迎負担が軽減し自転車や公共交通機関による通学が増加したこと、生活面では朝型の生活スタイルとなり生活リズムがほぼ一定になったこと、朝食を毎日摂る生徒の割合が増加したこと、などの改善が報告された。

以上のようなことを踏まえて、総合的に考えて昼間定時制とした。

（質問・意見）

- 少子化が急激に進んでいるため、高校再編はやむを得ないと思う。新庄南高校の敷地に定時制が移転する計画だが、新庄南高校の校舎施設の全部を使用するのか。

（県教委）

- 新庄南高校の校舎は現在第1棟～4棟あるが、築年数に差がある。第3棟の特別教室棟は昭和55年に、第4棟の産振棟は昭和56年に建設され、比較的新しく、耐震性もあるので、体育館を含めてこの二つの棟を使う計画である。定時制は全部で4学級なので十分間に合う。

(質問・意見)

- 新庄南高校は町の中心部である。今の回答を聞くと敷地の全てを使う訳ではないということだが、跡地利用をどう考えているのか。跡地利用は非常に大事である。新庄工業高校の跡地である東山は現在荒廃した状態となっている。そうならないよう、協議会等を設立し今から跡地利用を検討してほしい。新庄市では中心から外れたところに県立新庄病院、新庄警察署を現在建築中であり、中心部に大きな穴がいくつも空くことになる。行政も市民も街づくりに危惧を抱いている。

(県教委)

- 跡地利用については既に指摘をいただいている。
校地の活用方法であるが、全日制と定時制は別々の敷地となるが、一つの学校であるので、全日制の生徒が定時制の校舎を利活用することは十分ある。具体的な利活用については、来年度以降検討となるが、例えば、部活動において全日制の生徒が定時制の体育館やグラウンド等を使用することが考えられる。現在、新庄北高校で体育館を使用する部活動は、毎日体育館での活動ができず、ローテーションを組んでいる現状があると聞いている。
新庄南高校周辺は文化的なエリアであることは理解している。来年度から、基本理念や学校像を検討し、新高校の教育基本計画をつくる教育基本計画策定委員会を立ち上げることになる。現在、米沢産業高校（仮称）の教育基本計画策定委員会を行っているが、その委員には有識者である山形大学工学部教授、米沢市の総合発展計画をつくる部署の企画調整部長、米沢市の教育長、地元中学校校長も入っている。新庄の新高校でも同じような委員構成にすると、新庄市からも委員に入っていただくことになると思われる。その策定委員会でも市の意見を頂きたい。

(質問・意見)

- ① 統合校は、どうして新庄南高校を使用せず、新庄北高校の校舎を使うのか。
- ② 学校は町のシンボルであり、それがどこにあるかで町の賑わいが変わってくる。この再編整備計画を作る前に市町村とも話をしているとのことであるが、新庄市はこの計画をどのように考えているのかお聞きしたい。統合校が新庄北高校の校舎を使用することを納得しているのか。

(県教委)

- ① 統合校がどの校舎を使用するかについては、まず耐震性を考慮に入れる必要がある。新庄北高校校舎は昭和47年建設、平成6年に大規模改修をしており、古くはなっているが耐震性に問題はなく十分使用できる。一方、新庄南高校校舎については、第1棟の管理棟は耐震補強しているがやや古く、第2棟は耐震性に問題があり現在も使用していない。昭和50年代に建設された第3棟、第4棟は耐震性に問題がなく、今後も使用できる。キャパシティを考えると、新庄南高校は狭隘であるために新高校を容れるのは難しいが、新庄北高校であれば十分容れられる。よって、新庄北高校の校舎を使用する計画とした。
- ② 新庄市からは昨年度も意見を伺ったが、公表を前提としたものではないため、その意見を公

表するのは控えたい。今後さらに最上地区の自治体へはこれから意見聴取に伺う予定である。地域説明会での意見もお伝えしながら新庄市の意見を伺うつもりである。

(質問・意見)

- 地域の意見を取り入れており、とても素晴らしい計画だと感じた。ところで、新庄新B高校は単位制となるのか。

(県教委)

- その通りである。

(質問・意見)

- 3分校については、入学者数だけで統廃合を判断することなく、地域連携協議会を設置していただき感謝する。周りの保護者の中にも3分校の存続を望む声がある。今後の地域連携協議会での議論を期待したい。
- ① 昼間定時制のメリットも理解できるが、子供たちを見ていると、生活のリズムを崩し昼夜逆転している子もいる上に、不登校生徒や集団が苦手な生徒も多いので、夜間部を残したまま昼間部の設置はできないか。
- ② 定時制に関して、夜間と昼間の財政上の差はどのくらいあるのか。教育上のメリットはわかるが、財政上の違いについても教えてほしい。

(県教委)

- ① 現在の定時制は、以前と異なり、学びなおしや、様々なニーズに対応する高校となっている。最上地区では新庄北高校最上校が特別支援教育の実績があるが、定時制にも特別な支援を必要とする生徒や不登校生徒も多く入学している。新高校の定時制は、夜間から昼間に移行することになるが、具体的な時間帯は今後検討することになる。例えば平成30年度に昼間に移行した酒田西高校は午前中の授業としている。9時頃から始業し12時過ぎに終了する。始業を9時からとしたのは、全日制生徒の登校時間帯との重複を避ける配慮だと聞いている。また、令和4年度に庄内総合高校に設置される昼間定時制は、午前2時間、午後2時間授業としている。授業は10時過ぎから3時半頃までとなる。最上地区は現在ある定時制の学級数(1学級)を変更しないという方針で計画している。
- ② 夜間部は給食があるが、昼間部になると給食を提供する必要がなくなる。その点は両者で異なるが、それ以外はない。給食だけが異なり、財政上は大きな差はない。就学支援金、定時制のための補助も同じであり、特に違いがない。

(質問・意見)

- ① 報道によると、現在文部科学省や中央教育審議会でも普通科改革の準備が進められているようだ。早ければ令和4年度からの設置が検討されているようだが、最上地区の計画ではそれらも

検討しているのか。普通科改革との関連についてお聞きしたい。

- ② 地区内では新庄市に他の町村から多くの生徒が集まっており、北村山地区からも新庄市に進学している。これを踏まえ通学者の利便性を考えると、統合校は新庄駅から近い新庄南高校敷地の方が良いのではないか。北村山地区から新庄市に進学する生徒も多い現状であれば、北村山地区で地域説明会が必要だと考えるが、その予定はあるのか。

(県教委)

- ① いわゆる普通科改革は中央教育審議会初等中等教育分科会「新しい時代の初等中等教育の在り方特別部会」における「新しい時代の高等学校教育の在り方ワーキンググループ」において8月20日に公表されたものであるが、従来の「普通科」に加えて「学際科学的な学びに重点的に取り組む学科」と、地域社会が抱える課題の解決に向けた学びに重点的に取り組む学科」の2学科が設置できるということは承知している。マスコミ等では、新しい学科の設置について大きく報道されているが、大事なポイントは、専門学科や総合学科も含めた高校全体にスクールミッション（各高校の存在意義、社会的役割）の再定義（明確化）と、それに基づく三つのスクールポリシーの策定を求めたことである。その上で、普通科系の新学科の創設を提案するという構成になっている。スクールミッションが再定義（徹底）されれば、画一的だった普通科にも、自ずと特色化・多様化が促されるという考え方である。来年度、新高校のコンセプトを作ることになるが、その過程で普通科改革の流れを踏まえることになると考えている。また、文部科学省での今後の議論を注視していきたい。
- ② 再編整備計画は自宅から無理なく通える範囲に高校を設置するという考えに基づき、県内8地区に分けて計画している。北村山地区と最上地区との生徒（入学者）の出入りは、十分把握しているが、北村山地区で説明会をする予定はない。

(質問・意見)

- 人口の推移の資料を見ると、高校生が少なくなるのは分かる。そして新庄市も人口が減っていくのであれば、コンパクトシティにすべきであろう。そのような中、最上地区の中心的な県立高校を町の外れに設置するのはどうなのか。この市民文化会館がある地域は文化的なゾーンであり、新庄南高校、最上公園、文化会館など、沢山の公共的・文化的施設が徒歩2～3分以内に集まっている。このような地域から新庄南高校がなくなり、定時制だけの学校になることは、市の発展のためにも望ましくない。新庄南高校の生徒はこのような施設を活用して様々な活動をしており、この地域に馴染んでいる。その高校が中心部から外れることは中心部の活性化の点でもマイナス面が大きい。新庄北高校の校舎も決して新しい訳ではなく、学校建設には国から費用の半分の補助が出るとも聞いているので、この新庄南高校の敷地を広くして、新高校を作ることを提案したい。このように考える人が多い。

(県教委)

- まず、建設費用の補助は小中学校の義務教育のみが該当し、高校は該当しないことを理解していただきたい。

県としての原則的な方針となるが、新庄南高校では築年数の関係で今後長く使える校舎が少なく、新庄北高校の校舎は大規模改修もしているので今後長期間使用できる。あわせて財政的な点も考慮して、案を示した。ただし、統合した後は、中長期的には様々な考えが出てくる。差し当たって少子化対策、学校規模の維持等の喫緊の課題への対応としては今ある校舎を有効活用する案、つまり新庄北高校には新高校、新庄南高校には定時制という案を進めたい。ただし、将来のしかるべき時期に校舎を再び検討することになるかと思うが、施設・校舎担当は教育委員会の他の部局なのでこれ以上は言うことができない。実際、新庄北高校はより古い校舎の学校も複数あり、校舎建築はそれらも含めて総合的に判断されるものと思われるが、何とも言えない。繰り返すが、今回は、令和8年度の統合校には耐震性とキャパシティが十分である校舎を利用する案を示した。

(質問・意見)

- 新庄南高校の校舎の耐震性はどのようになっているのか。現在の新庄南高校の生徒は耐震性のない校舎で生活しているのか。令和8年まで耐震補強をしないのか。

(県教委)

- 新庄南高校校舎の耐震性がないわけではない。第2棟の耐震性はなく現在使用していないが、第1棟、第3棟、第4棟は耐震性がある。その中で、比較的新しい第3棟と第4棟を定時制では使用する計画にしている。

(質問・意見)

- ① 丁寧な説明に感謝する。今回示していただいている骨子案は既に方向性が決まっているのか。あるいは、県側が意見を聞きたいと言っている以上、意見を十分参考にしながら今後検討していくのか。意見が取り入れられる可能性はどの程度あるのかお聞きしたい。
- ② 人口減少の課題、昼間定時制のメリット、昼間部へのニーズは分かっているが、夜間定時制に進学するにはそれなりの理由がある。全国的には夜間部と昼間部を併置する高校があると聞いている。最上地区にも昼間と夜間の双方を設置する案はないのか。
- ③ 夜間部の設置が難しいとすると、昼間部でも午前2時間午後2時間、または午後4時間等の日課にするなどの検討をお願いしたい。

(県教委)

- ① 皆さんの意見を十分参考にして、検討を進めていくつもりである。
- ② 山形市にある霞城学園高校定時制は昼間部と夜間部があるが、人口規模の違いもあるので同列に論じられない。最上地区では現在ある定時制の学級数（1学級）を変更しないという方針

で計画している。学級数を増やすことは難しく、定時制2学級分のニーズがあるか疑問である。

③ 意見としていただく。

(質問・意見)

- ① 定時制を昼間に移行したいという考えはわかるが、現在の夜間部に在籍している全ての生徒が昼に対応することは難しいと思う。夜間を残して多様な学習ニーズを認めてくれる学校が必要だと考える。昼間に移行してインターンシップ等の体験活動を実施するとのことだが、入学して数年たち学校生活に慣れてきたとことでインターンシップに参加するようなことも認めてもらえるような学校が望ましい。
- ② 普通科が1校だけになると、中学生の選択肢が非常に少なくなる。場合によっては、普通科の統合校への1極集中になり、新庄市内2校で競い合うことにならないのではないかという心配がある。

(県教委)

- ① 意見としていただく。
- ② 選択肢が少なくなるという意見だが、統合しないで学級減を進めると、例えば新庄北高校が3学級、新庄南高校が1学級となることも予想され、そうすると野球部等の部活動が設置できない、物理や化学等の教員を配置できない等の問題が出てくる。確かに学校数自体は少なくなるが、学校規模を確保して、学びの選択肢は維持し、進路指導もきめ細かくできるようになる。十分な部活動も設置できる。学習・進路・部活動等において、子供たちがやりたいことができる学校を作るのが統合のねらいである。

(質問・意見)

- 新庄市内に他地区にない特別な学校や学科を設置して、地区外から入学者を集めるような検討はしなかったのか。農業・工業・商業以外に、例えば情報のスペシャリストを育成する科や、SSH（スーパーサイエンススクール）の指定を受けている東桜学館高校のような学校を設置してはどうか。

(県教委)

- 他地区から入学者を呼び込むような特別な学科ということだが、ある特定の分野に特化すればするほど逆に中学生にとって選択しづらくなる。北海道の三笠高校で調理科を作ったが、地区外の入学者が多くなり、地元から入学できなかったという例もある。また、そのような特別な学科に定員40人の入学者が集まるのかという危惧もある。

情報リテラシー等の情報の教育は必要であり必須のスキルであるので、情報教育は進めていきたい。SSHなど学校の特色化は来年度以降に是非検討していきたい。

以上